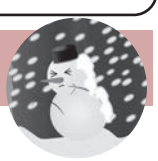
特集 防災まつまえ・災害に備えて

第３回 ～ 防 災 の 知 識 ～

問 総務課 42-2275

今年も、日本全国で様々な災害が発生し大きな被害が報告されています。
「広報まつまえ」では、数回に分けて防災についての特集記事を掲載します。今回は、雪害と大雪になることが多い天気図のパターン、除雪のこんなときが危険！について紹介します。

！【雪害】



暴風雪災害

暴風雪とは、雪を伴った強い風が吹くことです。降っている雪だけでなく、積もっている雪も風で巻き上げられるため、視界が真っ白になります。また、風で運ばれた雪が建物や車などでさえぎられた場所にたまり、吹きだまりが発生します。

もしも暴風雪に遭遇してしまったら

◆屋外にいるとき

視界不良（ホワイトアウト）により方向感覚がなくなり、自分の位置がわからなくなることがあります。

●近くの商店・コンビニエンスストア、人家など、建物の中の安全な場所へ避難。
●肌の露出を少なくし、体温の低下を防ぐ。
●歩行中は飛散物に注意。

◆家の中にいるとき

ＦＦ式暖房機などの吸排気口が吹きだまりでふさがれると一酸化炭素中毒を起こす可能性があります。

●吸排気口がふさがれていないか確認する。
●出入口を確保するため、吹きだまりの状況を見て除雪する。

◆車を運転しているとき

運転中に暴風雪となり、視界が悪くなった時は、そのまま運転を続けるのは危険です。

●安全な場所で天候の回復を待つ。
●気象情報や道路情報を確認する。

さらに気温が低く風が強いときは…

気温が低く風が強いと、雪面の雪が目の高さ以上に吹き上げられるようになり、これを高い地吹雪と呼びます。高い地吹雪では、運転手の目線の高さ1.2mを超えて雪が舞い視界がとても悪くなります。

◆車内で救助を待つとき

排気ガスによる中毒や低体温症に十分注意が必要です。

●原則エンジン停止
一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布などで体温の低下を防ぎましょう。

●エンジンをかけるときは
暖房などでやむを得ずエンジンをかけるときは、マフラー出口を雪から出し、埋まらないように注意しましょう。

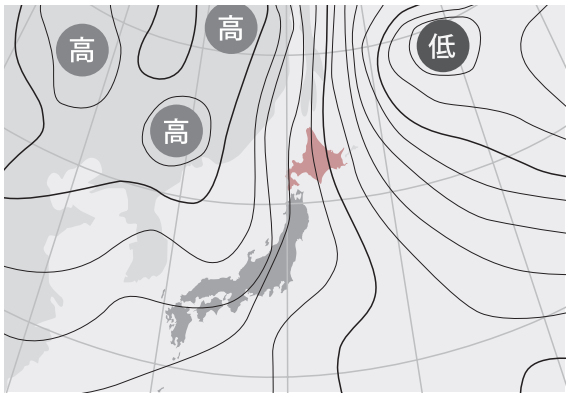
◆車が立ち往生したとき

立ち往生をしてしまった時は、後続車から追突されないようにしてください。

●ハザードランプを点滅、停止表示板を置く。
●JAFなどのロードサービス、近くの人家、警察・消防に救助を依頼する。

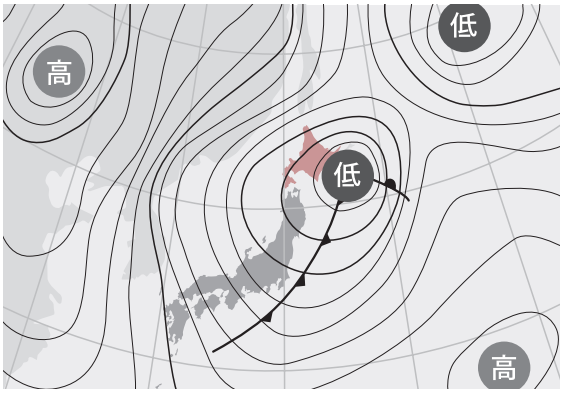
！【大雪となることが多い天気図のパターン】

冬型（西高東低）



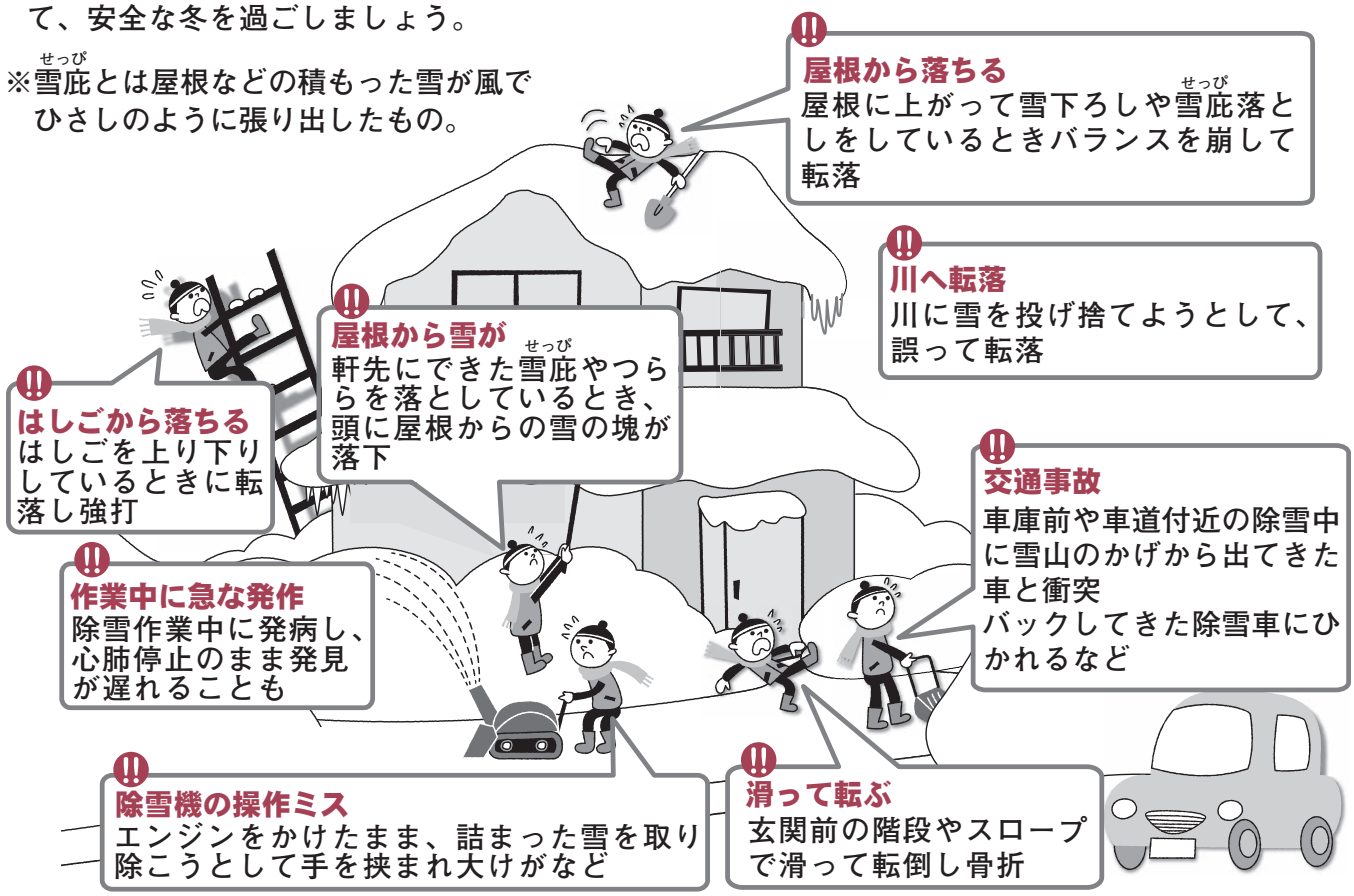
西に高気圧、東に低気圧があり、等圧線が縦に何本も並ぶとき、日本海側で雪となることが多くなります。

南岸低気圧



低気圧が北海道の南から北上していくとき太平洋側やオホーツク海側で雪となることが多くなります。

！【除雪のこんなときが危険！】

除雪は、松前では生活の一部ですが、いろいろな危険がひそんでいます。除雪に伴う雪の事故で毎冬たくさんの人がけがをしたり、亡くなっています。どんな時が危ないのか、しっかり知って、安全な冬を過ごしましょう。

※雪庇（せっぴ）とは屋根などの積もった雪が風でひさしのように張り出したもの。